

食堂（じきどう）

食堂は東寺にある住居であり、僧侶たちが食事をし、日々の宗教学習を行う所である。当初の食堂は、1000 年の間に起きた火災、地震、その他の危険を乗り越えた。1336 年のある合戦で、のちに将軍となる武將、足利尊氏（1305-1358）が東寺に本陣を置いた。

残念ながら、この建物は 1930 年についに火災で焼失し、現在の建物が 1933 年に完成した。中には当初の食堂で本尊の千手観音菩薩を守っていて火災で焼けた姿の四天王が、今も十一面観音菩薩をしっかりとお護りしている。

毎月 21 日には、四国巡礼路の八十八か所を表す巻物が食堂の外に掛けられる。これらの寺々はすべて真言宗の開祖である空海（774-835）と関わりがある。各巻物の前の地面には、各寺から集められた土が入ったお盆がある。伝統では、訪問者は実際にそれらの寺々を訪れることができなかったとしても、これらの寺々それぞれの土の上に立つことにより、その巡礼の全ての行程を完了した時と同じ御利益を得ることができるのである。